

美の里づくり審査会特別賞

かほくがたかんたくち つばたまち
河北潟干拓地ひまわり村(石川県津幡町)

ふるさとの水と土への愛しみの心を育み、農業への親しみを体験してもらう

津幡町は石川県のほぼ中央に位置する町で、河北潟は町の西南部にあります。「河北潟干拓地ひまわり村」は、9つの団体(石川県、金沢市、かほく市、津幡町、内灘町、河北潟干拓土地改良区、グリーン・アース河北潟、河北潟生産組合連合会、河北潟営農公社)で組織・運営されています。

ひまわり村では広大な干拓地を背景に2.3ha、35万本のひまわりが咲き誇っており、訪れる子供たちが干拓地の広大で豊かな自然環境に触れ、大きく成長してくれることを願って活動をしています。また更なる知名度やイメージアップと活性化に向けた取組として、平成12年度「ひまわり油」の販売を初め、平成20年度「ひまわりクッキー」、平成21年度「生キャラメル」と「白い大判焼き」等の商品開発・販売を実践しており、干拓地農産物の特産品作りにもチャレンジしています。

ひまわり村は、知事の発案で、農家等の協力のもと、平成7年度に面積60aからスタートし、15年が経過した今日、広大な干拓地を背景に年々面積を拡大して現在2.3ha、35万本のひまわりが咲き誇っています。春には緑肥作物のクリムソクローバーが畑一面に深紅の絨毯を敷き詰めたような鮮やかに咲きます。5月中旬には保育園児による、ひまわりの種まきを行い開村に向けた準備が始まります。7月下旬頃満開の開期に、ひまわり村では、同保育園児によるアトラクションや、迷路遊びなどの開村式を行い、お盆過ぎまで10,000人余りの方々が訪れ、子供達の笑顔で賑わっています。今では「夏の風物詩」として定着化した感もあり、夏になると干拓土地改良区や、関係市町に電話等による問い合わせが殺到します。

さらに、民間団体によるひまわりを題材とした写生大会や、迷路クイズ大会、アマチュアカメラマンによる撮影会、家族連れ、若者のカップル、高齢者施設のお年寄り、近隣の主婦仲間、児童施設や保育園児達など老若男女問わず多くの来訪者で連日賑わっております。

干拓地では営農活動が本来の姿ですが、これからの農業は観光化による活性化も必要と考え、四季を通して周辺地域の方々、或いは都市住民に自然に満ち溢れた有りのままの景観を鑑賞してもらい、また都市住民から活力の源を頂くことが、これからの農業振興に大きく関わって来ることを期待し、干拓地として「四季の花」を題材としたひまわり村をスタートしたものです。

干拓地では、春は防風林帯と平行して 9km、1,600本の桜並木の桜の乱舞、夏はひまわり村のひまわりの開花、秋はコスモスとメタセコイアの並木道の紅葉、冬はメタセコイアに降り積もる雪景色など、常に花や景観よる癒やしの実体験の充実を図りながら干拓地農業に対する理解と景観形成の保全・形成維持に努めています。



咲き誇るひまわりと保育園児たち